

少年育成センター

親子の信頼関係の大切さ

三豊市の成人式が1月11日に挙行され、大勢の若者が大人への第一歩を踏み出しました。将来の三豊市、さらには日本を担っていく成人の仲間入りです。保護者や地域の皆さんは、どのような大人になってもらいたいと願ったでしょうか。

二十歳のこの時期に、親子間で温かい会話ができて、自分の夢や希望に向かってしっかりと歩んでいる姿が見られるとうれしいですね。

子どもたちが健やかに育つためにも、親子の信頼関係をしっかりと築きましょう。そのためにも、明るい家庭をつくり、親が手本を示しながら見守り励まし、時には叱り厳しく鍛え、責任をもたせながら実行させていくことが大事です。

- ・手は離して、目を離さず（幼児期）
- ・親が手本を示そう（小学校期）
- ・子どもを知り、成長を促そう（中学校期）

【教育委員会作成リーフレットより】

補導や非行防止の啓発活動を振り返って
健全育成の活動を通して思うことをいくつか紹介します。

○駅に放置している自転車を連絡しても取りに来ないことがあります。物質的な豊かさの中で、失われている「もったいない」の気持ち。また、公共施設に長い期間放置し迷惑をかけていることに気付かない規範意識の低下が懸念されます。

○禁煙の必要性が叫ばれている中、減らないのが未成年者の喫煙。目の届かないところで吸う中・高校生もいます。今一度、成長期の身体への影響を考えてほしいと声をかけ続けています。煙草を吸うのは簡単ですが、いったん吸い始めると止めるのはなかなか難しいものです。

○万引きや他人の迷惑を顧みず爆音を鳴らしてバイクで走るなど、「善悪」の判断ができず、罪の意識がないまま行動する少年たち。自己を見つめる力を強くしてほしいですね。

健やかな成長を願って

子どもの行動に過保護あるいは、無関心になっていませんか。時には、毅然とした態度で臨むことも子どもへの愛情です。間違った時に叱ってくれる、厳しく鍛えてくれる人との出会いが本当の意味での成長につながります。

今年の成人式では、新成人に向けて横山市長から「溢れる夢に好奇心と勇気をもって挑戦してください」との激励の言葉がありました。健やかな成長を願って、しっかりと子育てをしたいものです。

▼問い合わせ

少年育成センター ☎62・1115

じんけん探訪41

女性も働き続けられるように

「産めないのか」「早く結婚すれば」などのやじが2014年6月、東京都議会でも飛びました。女性議員が晩婚化対策を質問した時でした。厚生労働省によると初婚平均年齢は男性31歳、女性29歳、第一児出産時には母親は30歳です。

多くの国民が結婚したい、子どもを生みたい、結婚しても子どもを持つて働きたいと願っているにもかかわらず、結果として少子化が進んでしまっていると考えられることから、平成25年版厚生労働白書には「国民が希望する結婚や出産を実現できる環境を整備することが重要となる」と書かれています。

県内の自治体では育児休業取得者243人中男性は7人、民間は142人中3人（四国新聞2014年10月7日）です。制度すらない企業も多く、結婚や出産での退職が続いており、「法律があっても守られなければ意味がない」という声が聞かれます。また、最高裁は2014年、妊娠による降格は男女雇用機会均等法に違反するとの判断を示し、いわゆる「マタ・ハラ」（マタニティ・ハラスメント）に警鐘を鳴らしています。

▼問い合わせ

人権課 ☎73・3008

文化財を訪ねて 59

讃岐遍路道
曼荼羅寺道
根香寺道



▲曼荼羅寺道(手前の石造物が道標)

今年度は、四国八十八箇所霊場が開かれてから1,200年の節目の年といわれています。三豊市には山本町の大興寺、豊中町の本山寺、三野町の弥谷寺があり、毎年多くの人々が巡礼の旅をしています。

さて、現在は、四国八十八箇所霊場を巡る時、車・バス・バイクなど、さまざまな交通手段があります。しかし、霊場が開かれたころは、みんなが徒歩で巡っていました。そのため、寺と寺の間には道標などが整備され、お接待の風

習が培われたものと思われます。この昔ながらの遍路道を今に伝える場所が、今回紹介する弥谷寺から曼荼羅寺までの道です。この道は、道標に書かれている文字の内容などから江戸時代に使われていた道であることがわかり、平成26年10月6日、『讃岐遍路道曼荼羅寺道 根香寺道』として国史跡に指定されました。平成25年10月17日に、高松市の根香寺から坂出市の白峰寺までの間が「讃岐遍路道 根香寺道」として指定されており、これに弥谷寺から曼荼羅寺までの道が追加指定された形となります。弥谷寺の参道の途中から普通寺側に向かうと、遍路道があります。道幅は2mほどしかなく、舗装された道に慣れている私たちには歩きにくいかもしれません。しかし、道端に置かれた道標などは、当時の人々が実際に札所寺院の間を行き来するための道として歩いてきたことを今に伝えてくれています。

▼問い合わせ

生涯学習課 ☎62・1113

みとよ暮らし みとよ時間



▲初夏にサクランボの実がなるのを心待ちに

「三豊市を知ったのは空き家バンクがきっかけ」と話すのは大阪から移住してきて一週間という上田崇さん、恵美さんご夫妻。「三豊は空き家バンクのホームページがすごく充実していて、気になる空き家を実際に見に来るたびに、三豊のことも、どんどん知っていったという感じです。この家は探していた古民家でありながら、古すぎないので、住みながら自分でリフォームしていかれることも魅力の一つでした。目指すところはヨーロッパアンティーク!!!と田舎暮らしを考えていました。ここは、有効求人倍率も高いし、電車やコミュニティバスも走っていて暮らしやすいと思います。両親が関

西でいるので何かあったら駆けつけられるのも安心です。気候の良いこの場所、のんびりと暮らしていきたい」と夫の崇さんはひとよ暮らしを楽しみにしています。妻の恵美さんは、「足音に気を付けたり、車の騒音を気にしていた生活から一転、ここは静かで空気が澄んでいて、夫の咳も出なくなりました。のどかな海を見たり、プラネタリウムのような美しい星をみたり、朝、小鳥のさえずりを聞いたりすると、三豊に来たなあと感じます。ご近所の皆さんも優しく、声をかけてくれたり、野菜をくれたり、私たちを受け入れてくださっているのを感じ、ありがたいです。シルバーアクセサリーを作っているの、家に工房を作った本格的にやりたいですね。夢は自分好みにしたお庭で作品を撮影しインターネットで販売していくこと」と話してくれました。

市では、空き家バンクの登録物件を随時募集しています。▼問い合わせ 田園都市推進課 ☎73・3011